

令和8年度第2回茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会会議録

議題	1 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン単年度評価(委員会評価)について 2 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン中間評価(委員会評価)について 3 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン中間見直し改訂版(骨子案)について
日時	令和8年8月17日(月)午後2時00分から午後3時55分まで
場所	茅ヶ崎市役所 分庁舎5階 特別会議室
出席者	野田邦弘委員長、山口理紗子副委員長、森井健太郎委員、野田穂委員、 栗林大空委員、岩本一夫委員、沼上純子委員、村田賢太郎委員、 入江観委員、井上由佳委員 (欠席委員) 長本貞光委員、中嶋信生委員、西澤秀行委員、伊藤隆治委員 (事務局) 富田文化スポーツ部長、多田文化推進課長、井上課長補佐、 藤井課長補佐、豊原課長補佐、坂田課長補佐、池田主任、高橋主任、 前田主事
会議資料	・次第 ・【資料1】茅ヶ崎市文化生涯学習プラン令和7年度施策評価(委員会評価) ・【資料2】茅ヶ崎市文化生涯学習プラン令和6年度・令和7年度中間評価(委員会評価) ・【資料3】茅ヶ崎市文化生涯学習プラン中間見直し改訂版(骨子案) ・【資料4】茅ヶ崎市文化生涯学習プラン改訂版(骨子案)に係る意見一覧 ・【参考資料1】回茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会開催に係る流れについて ・【参考資料2】文化生涯学習に関するアンケート(案) ・【第1回推進委員会_資料1】茅ヶ崎市文化生涯学習プラン中間見直しスケジュール
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	—
傍聴者数	0人

1 議題1 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン単年度評価(委員会評価)について

(資料1に基づき、審議を行い、令和7年度施策評価(委員会評価)の答申記載内容について原案のとおり決定された。)

(1) 施策1 市民の文化芸術・学習機会の充実

市民ふれあいプラザコンサートへの意見

イベントを実施することは大変であり、毎月、市民ふれあいプラザコンサートを実施することは職員にかなりの負担となると思われる。市ではなく、実行委員会のようにやってほしい人にグループを作って実施してもらうなどしないと継続は難しいと考える。(岩本委員)

すぐくオープンスペースで、移動している市民や職員も足を止めて見ている風景を何回か見た。1階のエレベーターの前のところに椅子を出して、さらに立ち見の姿もあって、歩きながらや移動しながら見ている微笑ましい風景だと思っています。これからも無理のないよう継続をお願いします。(沼上委員)

➡工夫を凝らしながら、様々なジャンルの取り扱いや、回数が増やすにはどうしたら良いかというところを踏まえて、検討を進めていきたい。(事務局)

2 議題2 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン中間評価(委員会評価)について

(資料2に基づき、審議を行い、令和6年度・令和7年度中間評価(委員会評価)の答申記載内容について原案のとおり決定された。)

(1) 基本目標1 誰もが文化芸術の鑑賞等ができる環境が充実している

初等中等教育における美術の時間に関する意見

今、初等中等教育で美術の時間が削減されており、それに代わるものとして美術館が役割を果たしてくれればと思っている。その役割等について、美術館の現場職員を本委員会に参加してもらおうと良いと思う。学校側の意見もあるでしょうから、学校と美術館と両方の意見を聴きながら深めていくことは大事だと思う。(入江観委員)

3 議題3 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン中間見直し改訂版(骨子案)について

(資料3骨子案について委員意見をまとめた資料4の内容を中心に中間見直し部分について、審議を行った。)

(1) 第3章 プランが目指す姿・目標・施策

他機関や市他部局等との連携に関する意見

美術館の運営自体が文化・スポーツ振興財団と文化推進課が連携して行っており、連携の一番見えやすいところだと思いますが、色々な資料を共有することが連携として望ましい形だと思っています。市民が茅ヶ崎市の持つ文化的資源などを共有できるような形で、連携を深めていっていただきたいです。(山口副委員長)

所管が違うとか分野が違う中での連携が、今とても大事な時代になっていると思います。文化生涯学習プランに文字として残してもらうことは分かりやすくなると思います。(野田穂委員)

連携の部分はあってよろしいが、市の横の連携だけじゃなくて、あらゆる形で、例えば茅ヶ崎市文化団体協議会が実施しているということを把握して記載すると分かりやすいと思う。(岩本委員)

茅ヶ崎市は非常に文化的な活動をする人がたくさんいらっしゃることは事実だと思うので、それをどういう方法でリサーチするかは大変だと思います。また、何もしない方が良いという意見もあるかと思います。市民やクリエイターは様々な意見や感性を持っていますが、必ずしも行政と上手くやっていこうという人だけではないですし、関係ないという人たちもいるのは事実ですし、それはそれで良いかと思います。自治体によっては、アーティストファイルみたいなものを作っているところもありますが、茅ヶ崎はあえてそこまでやらなくても、事業を行うことでネットワークを広げていけばと思います。今後、少子化が進んでいく中で、仕事のやり方や質が変化してくるかと思うので、その辺も見越しながら、次世代の文化政策について大局的な観点も忘れずに進めていっていただきたいです。(野田委員長)

茅ヶ崎ならではの事業者の活動の場は、茅ヶ崎 LOVE が感じられ、今本当に盛り上がっています。そのような事業者の共催や後援等、色々な形をとって盛り上げていっていただけたらと思います。(沼上委員)

(2) 第4章 プランの推進に向けて

コラムに関する意見

48 ページのコラム 4 ですが、施設名の表記が正式名称でない。茅ヶ崎市立博物館ではなくて、茅ヶ崎市博物館であるという使い分けは大きな意味がありますし、行政の資料なので、正式名称を記載いただいた方が良いでしょうと思います。

ただ、かなり込み入った資料になり読みづらくなる視認性の問題があるかと思います。文化財の位置も同じ位置で4つ挙がっていますので、何かもう少しデザインの整理も必要かと思います。(井上委員)

その他の意見

クリエイターシティ・チガサキという言葉は、子どもたちの中で自然にそういうクリエイティビティって茅ヶ崎なんだなんていう言葉が、意味もなく抽象的にそういうのが広がっていけば良いなと思っています。

また、具体的なものはなくても言葉でイメージして何かが生まれることもあるし、その言葉によって何か新しいものが生まれることもあるのではないかなと思っています。(沼上委員)

4 今後のスケジュールについて

(資料説明)

5 閉会

(閉会挨拶)